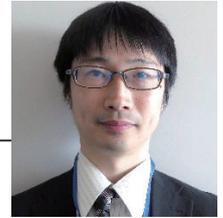
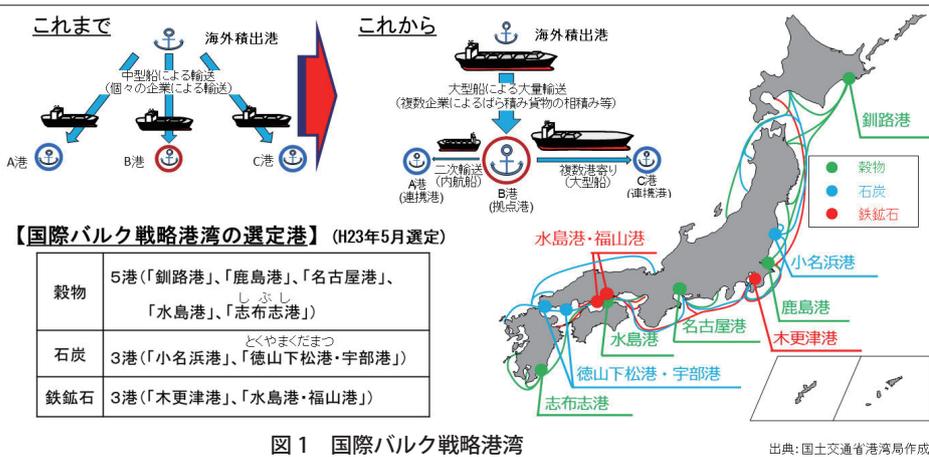


多角的なエネルギー供給拠点の形成に向けて

—— 徳山下松港の港湾機能強化



国土交通省 中国地方整備局
宇部港湾・空港整備事務所長 鈴木 純



1. はじめに

当事務所は、山口県内（下関港除く）の国際拠点港湾の徳山下松港を始めとして宇部港、岩国港等の重要港湾4港、避難港である油谷港の整備を所管しています。本稿では、徳山下松港において実施している港湾機能の強化に係る取り組みをご紹介します。

2. 国際バルク戦略港湾政策

ばら積み（バルク）貨物を輸送する船舶は世界的に大型化が進展していますが、我が国の岸壁は、近隣諸国と比較して古く、水深が浅い傾向にあり、港湾毎に中型船による非効率な海上輸送が行われ

ています。このため、大型船が入港できる港湾を拠点的に整備し、企業間連携による大型船を活用した共同輸送を促進することで、国全体として安定的かつ効率的な資源・エネルギー・食糧の海上輸送網の形成を図り、物資の安定的かつ安価な輸送を実現し、我が国産業の国際競争力の

強化、雇用と所得の維持・創出に寄与するべく、国際バルク戦略港湾政策が展開されています。この国際バルク戦略港湾政策の一環で、コールセンターとしての機能を有している徳山下松港及び宇部港は、平成23年に国際バルク戦略港湾（石炭）に指定されました。

3. 徳山下松港国際物流ターミナル整備事業

徳山下松港では、平成28年度より国際バルク戦略港湾政策におけるプロジェクトである「徳山下松港国際物流ターミナル整備事業」に着手しています。本事業は、下松地区、徳山地区及び新南陽地区の3地区において港湾施設を整備するものであり、ケーブサイズ船舶（14万DWT）の入港に

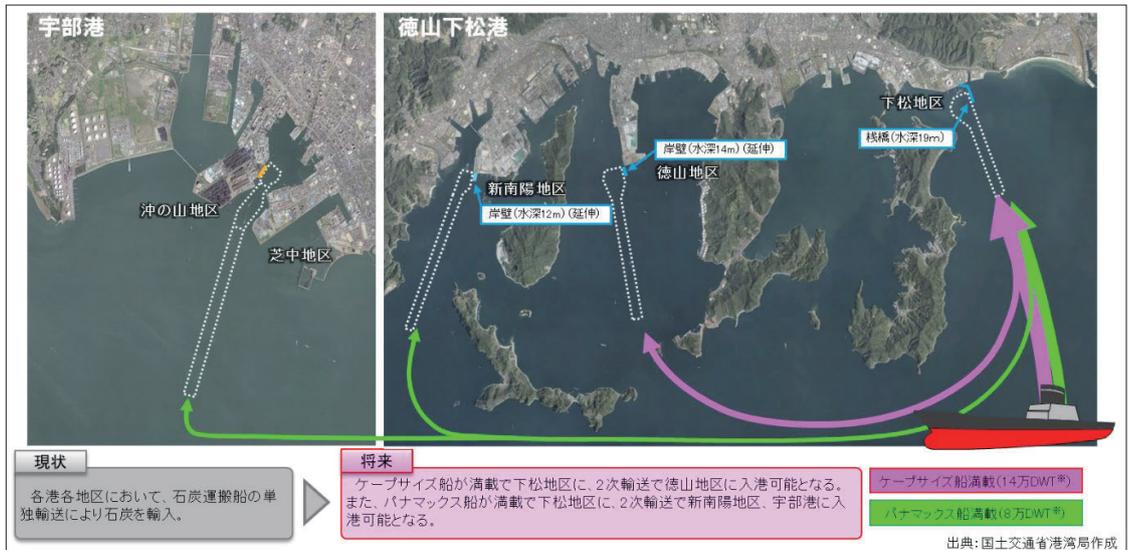


図2 徳山下松港国際物流ターミナル整備事業

対応した係留施設として、下松地区では栈橋延長 390m・水深 19m、徳山地区では岸壁延伸 110m（既設岸壁と合わせて 390m）・水深 14m、パナマックス級船舶（8 万 DWT）の入港に対応した係留施設として新南陽地区では岸壁延伸 80m（既設岸壁と合わせて 320m）・水深 12m の整備を進めています。

本事業による入港船舶の大型化や共同輸送の進展により約 2 割の海上輸送コストの削減が見込まれます。

4. 徳山下松港港湾脱炭素化推進計画

カーボンニュートラルに向けた動きが加速する中、地域の生産活動において当面は一定量の石炭需要が継続して見込まれていることから、徳山下松港は引き続き石炭供給拠点としての役割を果たすとともに、これから需要が急増するバイオマスや水素・アンモニアといった次世代エネルギーの供給体制の整備・構築に向けて、地域のニーズを踏まえた取組を進めていくことが求められています。令和 2 年度より、CNP（カーボンニュートラルポート）形成に向け、将来的に需要拡大が予想される水素、アンモニア等の次世代エネルギーの活用に向けた検討を進め、令和 6 年 3 月に徳山下松港港湾脱炭素化推進計画が策定されました。

実施主体となる行政や港湾利用企業は、ターミナルや物流活動の低・脱炭素化、火力発電所等における次世代エネルギーの利用拡大、ブルーカーボン生態系等を活用した吸収源対策といった分野でそれぞ

れ連携しながら徳山下松港の脱炭素化に取り組みます。特に、バイオマス、アンモニア、水素といった次世代エネルギーについて、供給拠点の形成に向けて必要な港湾施設整備等の検討を進めていくこととしています。

5. おわりに

今後も、西日本エリアへのエネルギー供給拠点としてのポテンシャルを活かし、地域産業と連携しつつ、更なる物流の効率化を図るとともに民間企業の国内投資を呼び込み、多角的なエネルギー供給拠点を形成していくことで、我が国産業の国際競争力強化に貢献できるよう取り組んでまいります。



写真 1 下松地区栈橋の整備状況 (R6.7.18 撮影)



写真 2 徳山地区岸壁の整備状況 (R5.8.3 撮影)



写真 3 新南陽地区岸壁の整備状況 (R3.7.21 撮影)



図 3 2050 年カーボンニュートラルポートのイメージ図
(出典：山口県ホームページ 徳山下松港港湾脱炭素化推進計画 (概要版))